



全国曹洞宗青年会

2007.10

No.139

新連載 Person

巻頭インタビュー 榎野俊明 師

山水に得失なし 得失は人の心にある

全曹青インフラフォーラム

新潟県中越沖地震災害復興支援活動報告



建功寺住職・庭園デザイナー

写真提供 田畑みなお
枡野俊明師

山水に得失なし 人の心にはあり

室町期・臨済宗の黄金期を築いた禅僧・夢窓国師が説いた「山水に得失なし 得失は人の心にある」（庭をつくる技術より、つくるといふことに込められた求道心が重要である）の言葉を座右の銘に、国内外で空間設計を手がける枡野俊明師にお話を伺いました。

——枡野師は海外で講演される機会があるそうですが、その際、禅をどのように説明されていますか？

禅とは、本来の自己と出会うこと。などと言ってもよくわからないでしょうから、わかりやすく言えば、清らかな心、いわゆる執着心をいかに小さくしていくかを考えて、どう生きるかということを極めていく哲学なのです。宗教ですが哲学なのです、と説明します。

清らかな心、仏性はみんな持って生まれてきているのですが、我執、執着心に覆われて、見えなくなってしまうっている。もっとわかりやすく言うと、心の余分な脂肪を蓄えてしまっている。本来の自分自身もっているきれいな身体が、生活の乱れによってどんどん余分な脂肪に覆わ





祇園寺龍門庭

活をしています。自然とのかかわりがすごく好きで、その中に仏法を見いだそうとした人なのです。その後、自分の思うところを師匠である高峰顕日に伝えて、無学祖元から受け継いだ袈裟を受け、印可証明を与えられています。

そして故郷の甲州に戻って浄居寺というお寺を開くのです。今は、曹洞宗のお寺ですが、庭園は残念ながら、疎石の作庭ではありません。疎石は、自分が好きだった庭造りを甲州の恵林寺から始めたのですが、その庭はまだかなり初歩的なものでした。

——柗野師は夢窓国師（疎石）の影響を多く受けていると著書にも書かれています

「山水に得失なし 得失は人の心にあり」という疎石の言葉は、人生にプラスになるとかマイナスになるとか言うものではなく、自分の心の中でどう位置づけてやっていけるのか、また、成長させていけるのかというところで作庭をしている。だから得るとか失うとか、山水をしたからということ特別なことはない。ということを一生涯伝えようとしているのです。ですから疎石は山水をずる事そのものが修行だということを

れてしまう。その心の脂肪をゼロにすることは無理ですが、それを薄くする事はできるのです。

そのためには、修行が絶対に欠かせない。それを続ける事によって薄くしていく、本来の自分を見つめる事が出来るのです。

——禪と庭について

蘭溪道隆禪師が一二五三年、建長寺を建立する時に「方丈」という建物の北側に池のある庭を造りました。それが禪と日本における庭園の初めてのきつかけです。道元禪師が帰朝して五〇年後に蘭溪道隆禪師が

渡来します。もちろん曹洞宗では、道元禪師が、伏見の興聖寺に日本で初めて僧堂を造り、ある程度の宋朝禪としての伽藍が出来上がってはいったのですが、庭園は造られてはいなかったのです。

（道元禪師は、鎌倉下向の折、北条時頼に本格的な宋朝禪の伽藍を整えた寺院を建立し、開山に迎えたいと言われたがあつさり断り、菩薩戒を授けて半年で永平寺に戻っているのですが、その時の「伽藍が整ったお寺」が今の建長寺です。ですからもし道元禪師が開山になっていれ

ば、建長寺も曹洞宗だったかもしれませぬ。）

日本に禪の庭園を伝えた蘭溪道隆禪師と夢窓疎石（以下疎石と略称）とは、時代が違っていますが直接会ってはいませんが、北条時宗が建長六世無学祖元（一二二六～一二八六）を鎌倉五山の第二位として円覚寺の開山に迎えています。無学祖元の弟子に高峰顕日（一二四一～一三一六）がおり、このまた弟子になるのが疎石です。

疎石は建長寺を出た後、約三年間、東北まで行脚し、あちこちで隠遁生

庭は私の分身、私の心を映す鏡

言われていますね。道元禪師が山水について『正法眼蔵山水経』の中で書かれていることと同じなのです。

たまたま曹洞宗は、志比の庄の永平寺に拠点を構え、また、能登の總持寺も、自然の豊かな地なので、庭を作る必要がなかったのです。すべてが自然の庭、溪声山色なのです。傘松道詠に「峯の色 溪の響もみなながら 我釈迦牟尼の声と姿と」とあるように自然そのものが仏法なのです。道元禪師は大自然で仏法を行じていましたが、臨済宗は、都を中心に発展したから、寺の敷地に擬似的な自然を持ち込まなければならなかった。ここで、曹洞宗と臨済宗の大きな違いが出てくるようになったのです。

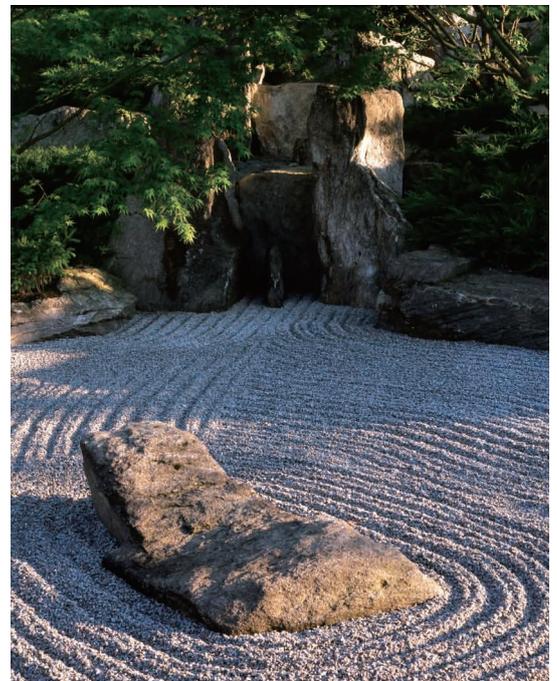
私が調べていて、気が付いたのは、作庭や自然との対話が現成公案だということなのです。その自然の中に公案を見抜くことが、現成公案なのです。ありのままの自然を見ていくことなのです。臨済宗こそ公案禪といながらも作庭を一生懸命しているということは、まさに現成公案なのではないかと思うのです。臨済宗では公

案禪で段階的に証明してゆく為、自分の境地を証明する必要があったのです。「不立文字 教化別伝」ですから、その手段として、墨蹟・墨画等をつかうのです。言葉では表現できないですから。立体表現を好んだ人は庭を作った。この僧達を石立僧と言います。

最初は龍門瀑が多いです。二三級の滝 波高うして魚龍と化す」という漢詩があります。ですが、滝を鯉が登りきると龍になると言われています。登龍門の語源なのです。公案禪の関門を突破することに滝を象徴としたのです。自分を鯉の姿に見立てる。自分に見立てた石を滝の中に置くのです。庭と言うものと対峙して、そこに自分の仏法や自分の生き方を見出そうとしているのは、現成をどう捉えていくのかということなのです。

——将来の目標とは、どのような庭ですか？

お寺でなくても構わないのですが、造る人の心の状態を一つの庭



ベルリン日本庭園融水苑

いけば坐禅をしたようなものにもなるのです。本当のありがたさ、生きている事の大事さというものを、庭を通して感じてもらえるようにしたいのです。

たとえば、龍安寺の庭に座していると、ものすごく気持ちがいいですし、時間さえあればゆつくりしていたいと思うのです。そして

眺める人は、庭と一体になることによつて、自分自身をもう一度見つめ直してもらう機会になれば、非常に現代社会の中においても意味があることだと思っています。今の時代は皆さん忙しく、何かに追われて生きています。自分自身をとかく見失いかけていますから、自分の人生やものの考え方、捉え方はこれでいいのかと、もう一度見つめ直してもら

う。わかりやすくいうと、スイッチを切り、元に戻してもらおう、スイッチオフしてもらおう。それで、ひととき静かな時間を取り戻してもらおうことです。それは自分自身を見つめ直すきっかけとなり、それを深めて

りしていたいと思うのです。そして帰るときはみなさん、心おだやかになって帰られる。そういう庭を造る事が出来ればいいなと思っています。

目標になっているのは、抽象的でありながら緊張感がある、龍安寺の庭です。

——青年僧に対してメッセージを

まずは自分の活動に自信を持つてください。二番目は常に危機感を持つてください。

危機感の方から言いますと、世の中の企業は、その時代のニーズに合ったものを供給していかないと誰も買わない、誰も見向かないのです。そうすると、自然に淘汰されて、消



高円寺 参道

えていくしかないのです。それで、現状のお寺の世界はどうかという、お檀家さんは固定しています。ですから、企業努力をしなくても、潰れる事はないのです。しかし、お寺が潰れる事は無くても、お檀家さんから見向かれなくなる事はあるのです。「葬儀や法事だけ寺に行けばいい、後は関係ない」となればこれほどさみしいことはないでしょう。

そうならないためには、常に考えて工夫し、地域性であるとか、お寺の歴史であるとか、あるいは個人が今までやってきた経歴などを活かして、どう社会に還元していくか、これを常に考えなければいけません。それから、自信を持つてください。と言うのは、ひとことで言うと、就職の出勤。どこへ行くのでも、法衣、作務衣を着るといふことです。服装はその人をあらわし、人格までもあらわしますから。そうすると、自分で意識を持ち、行動に自信と責任をもたなければならぬ。それは逆にその人を成長させるのです。

(注一) 蘭溪道隆 (一一二一～一一二七)

臨済宗楊岐派松源派。日本臨済宗大覚派の祖。建長五年(一一五三)鎌倉の建長寺の開山になる。大覚禅師の諡号を亀山上皇より受け、日本禅師号のはじめといわれる。

(注二) 夢窓疎石 (一一七五～一三五一)

臨済宗佛光派。伊勢(三重県)の人。幼にして出家して天台に学び、のち禅に転じ、高峰顕日に参じてその法を嗣ぐ。龍山庵(山梨)虎溪庵(岐阜)吸江庵(高知)泊船庵(神奈川)退耕庵(千葉)など諸所に隠れ住したが一三二五年後醍醐天皇の勅によって南禅寺に住した。翌年、鎌倉に帰って南芳庵を開き、更に浄智・瑞泉・円覚の各刹を薫したが、後醍醐天皇の命で南禅寺に再住し、



高円寺 参道

て落髪受具す。一二七九年無学祖元来朝して建長寺に住するや、一翁院豪書を以つて高峰を長楽寺に招き、無学に参見せしむ。以後、高峰は建長寺の無学に参じ久しくして旨を得。無学はこれを印可して信衣・法語を授ける。のち那須雲巖寺に帰り一三〇〇年浄妙寺(神奈川)に住し、次いで万寿・建長の両寺に歴住す。世寿七六

(注四) 龍安寺(リョウアンジ)

臨済宗妙心寺派。山号…大雲山。京都市右京区。方丈の前庭は石庭として名高く室町時代末期の作で作者未詳。長方形の庭に白砂をしきつめ、十五個の石を配している。一木一草を用いず、きわめて象徴的な表現で自然を写しだしているが、溪流をあたかも虎が兎を伴って渡っているようにも見えるので、一名「虎の仔渡し」ともいわれる。

柘野 俊明(ますの しゅんみょう)
曹洞宗徳雄山建功寺住職、庭園デザイナー(日本造園設計代表)、多摩美術大学環境デザイン学科教授、ブリテイッシュ・コロンビア大学 特別教授 (Adjunct Professor)
著書

「夢窓疎石―日本庭園を極めた禅僧」、
「日本庭園の心得―基本知識から計画・管理・改修まで」、
「日本庭園観照術」、
「寺院空間の演出」、
「禅の庭―柘野俊明の世界」など。

代表作
麴町会館庭園 セルリアンタワー東急ホテル庭園、ドイツ ベルリン日本庭園「融水苑」、祇園寺庭園等 多数

天皇崩御後、足利尊氏の請で天龍寺開山となった。他に臨川寺、等持院、真如寺、西芳寺などを開いた。世寿七七。遺著に「夢窓録」「夢窓法話」「谷響集」「西山夜話」「夢中間答」などがある。

(注三) 高峰顕日(一一二四～一一三二)

臨済宗佛光派。城西の離宮に生る。後醍醐天皇の子。十六歳、円爾を東福寺に押し

新連載

- 02 Person 巻頭インタビュー
庭園デザイナー 枡野俊明 師

- 07 全曹青インフォメーション
- ボランティア委員会紹介
 - ボランティア委員会研修会「死への準備～今をどう生きるか～」に参加して
— 浄土宗総合研究所公開シンポジウムレポート —
 - 新潟県中越沖地震復興支援活動報告

新連載

- 委員会コラム
- 曹洞ユース — 曹洞宗埼玉県第一宗務所青年会 —

- 14 賛助会員御芳名
- 16 「禅」知識まんだら2
- 18 そうとう衆列伝「大道長安」
- 19 菜食健美
- 20 寺族のテラス
- 21 そうせいサロン
- 22 ネットで楽しむ禅籍サーフィン — 大乘二世瑩山紹瑾大和尚伝光録 —
- 24 あまんずのダイアローグ②
- 26 曹洞宗の袈裟に学ぶ(第3回)
— 袈裟を縮小した小衣 —

表紙写真・提供：蓮勝寺普照庭・田畑みなお
表紙デザイン・目次イラスト・挿し絵：宮沢のり子
全曹青ホームページ <http://www.sousei.gr.jp/>



委員会紹介

ボランティア委員会

活動目的

ボランティア委員会では、今、僧侶に求められているものは何かを見つめ、僧侶が行うべき活動を模索し、推進していきたいと考えております。私たちは各寺院において地域の方がたと共に生老病死と向き合っており、死を迎えられた方とその遺族・ご親族の方がたと悲しみを分かち合い、心に寄り添ってまいります。その「心に寄り添う」ことに焦点をあてていきたいと考えております。そこで、多くの方がたの現実の苦を我が事のように捉え、心と心でふれあう同事行に着目し、心に寄り添っていく「傾聴」を、今期のテーマとさせていただきます。そしてテーマに沿ってさまざまな研修会を行い、研鑽を重ね、会員相互の繋がりと共に「傾聴」への意識の向上に繋がっていききたいと考えております。

災害復興支援活動

平成十九年七月十六日十時十三分、新潟県上中越沖において大規模な地震が発生いたしました。この地震により、新潟県長岡市・柏崎市・刈羽村で震度六強を記録し、人的被害・建物被害ともに甚大となりました。大きな被害となった柏崎市ではボランティアセンターが立ち上がり、宗務庁において災害対策本部、新潟県第三宗務所において現地対策本部が設置されました。それに伴い、全曹青ボランティア委員

会として、七月十九日より現地入りいたしました。災害対策本部（宗務庁）・現地対策本部（新潟県第三宗務所）・全曹青・新潟県曹青・各県曹青・SVAとの連携のもと、大規模な復興支援活動が行われ、私たちボランティア委員会も微力ながら現地の調整役・活動の実動的役割をさせていただきました。（詳細は9～11頁参照）

「災害発生時に関する全曹青と各都道府県曹青間の覚書」・「ボランティア憲章（仮称）」の作成

新潟県中越沖地震復興支援活動におきましては、宗門関係のさまざまな団体との協力的体制のもと、現地にて活動が行われました。災害が発生した際には、ボランティア委員会だけではなく、多くの方がたにご協力いただき災害復興支援に臨む必要があります。災害復興支援活動においては地元曹青会との連携が不可欠となります。そのため、各都道府県曹青の方がたと共に、意識の向上・共有していくことが肝要であると考えます。そこで、「災害発生時に関する全曹青と各都道府県曹青間の覚書」の作成を目指しております。また、なぜボランティアなのか？なぜ災害なのか？を見直していき、ボランティアの意義を明確に打ち出すことの必要性から、「ボランティア憲章（仮称）」の作成に向けて協議を重ねております。

各委員
コメント

委員長 瀬田 啓道

（曹洞宗鳥取県青年会）



「いただいたご法縁に感謝し、僧侶だからこそ行うべきボランティア活動を模索し推進してまいります。」

副委員長 新川 泰道

（秋田県曹洞宗青年会）



「青年会活動もあと残り僅か、最後のご奉公のつもりで微力ながら委員長を支えられるようがんばります。」

委員 大徳 順寛

（茨城県曹洞宗青年会）



「今年度より、ボランティア委員に任命されてまだまだ、勉強、経験不足ですが、多くの方の活動を勉強させていただいて精進していきたいと思っております。」

委員 宮下 俊哉

（曹洞宗長野県第一青年会）



「自己の反省を常に心に、すべてにおいて学ばせていただきました。よろしくお願いたします。」

委員 市岡 宜展

（曹洞宗岐阜県青年会）



「すべてのご縁に心から感謝申し上げます。」

委員 袴谷 憲由

（北海道第三宗務所青年会）



「本山を下りて一年半ほどしかたっており、僧侶としてまだまだですが、勉強させていただきました。」

委員 山口 尊生

（熊本県曹洞宗青年会）



「まだまだ未熟者で御座います。が何卒よろしくお願いたします。」

浄土宗総合研究所公開シンポジウム

「死への準備〜今をどう生きるか〜」に参加して

日時 平成十九年六月二十八日(木)
場所 大本山増上寺 三縁ホール
(東京都港区芝公園)

日程

- 午前十時〜十二時
公開シンポジウム
- 午後一時〜
定員制ワークショップ
- 午後四時〜
グループ発表・全体討論
- 午後五時
開会

第十七期ボランティア委員長 瀬田 啓道

この度、浄土宗主催にて行われる公開シンポジウムに私自身初めて参加させていただいたが、浄土宗の方が「死」という大きなテーマを掲げてどのように展開されていくのか、期待を胸に抱き拝登いたしました。

開会式の後、公開シンポジウムとなり先生方の講演が始まった。会場内には先生方を走らせる音が鳴り響いていた。それぞれの先生方がさまざまな視点から死について見つめ、死に直面された方がたやご家族の方がたを、現代社会において如何に支えていくべきかを常に模索されている様子が感じ取れた。私は先生方の講演の内容から「医療の現場や寺院、強いては医療従事者や僧侶等の垣根を越えて助け合い、協力し合って死に直面された方がたやご家族の

方がたと向き合い、そして寄り添っていかねばならない」という共通のテーマを感じました。

私が特に関心を抱いた講演は、医療機関の問題点を挙げられた岡野氏の「患者の肉体的・精神的・社会的苦痛などに対し、担当医のみならず看護師・ソーシャルワーカー・宗教家・家族等が協力し、苦痛の緩和・除去に努める体制作りが急務である」という言葉の重さを感じるとともに、田中師の「生老病死の現場において仏道を実践されている僧侶は、患者や医療従事者のスピリチュアルケアやグリーフケア（死別悲嘆支援）を行っていかねばならない。その方法として、苦しむ患者と向き合い、医師から延命不可等のつらい病状説明を患者とともに聞き、患者の心に寄り添うこと。まさに傾聴と共感していくことが肝要である」というお考えに強く賛同しました。そして今期のボランティア委員会の活動のテーマとしている「傾聴」が、今まさに僧侶に求められていることを改めて強く感じた内容の講演でありました。

ワークショップでは、五十名を超える参加者が五グループに別れ、がんの告知の問題を例とした「症例」をもとに考えさせていただいた。私のグループには浄土宗総合研究所主任研修員・江戸川区の浄土宗のご寺院様・昨年度大本山永平寺を送行された曹洞宗総合研究センターの方などとともに意見を出し合いました。がんを受け入れず、死を遠ざける社会的体制が問題として挙げられ、病や死への心の準備は、その直面されたご自身が主となり、ご家族や医療従

事者・宗教家の協力のもと行われなければならぬ」という結論に至りました。このようにワークショップ形式において「死」について協議していくことは、医療の現場や死に直面された方・ご親族・ご遺族の方がたと悲しみを分かち合い、われわれ僧侶にとっても非常に意義のあることであります。この度のシンポジウムに参加し、改めて死について考えることができ、気持ちを引き締めることができました。尊いご法縁に感謝申し上げ感想とさせていただきます。

ボランティア委員 袴谷 憲由

今回、全国曹洞宗青年会ボランティア委員会の一員として浄土宗総合研究所公開シンポジウムに参加させていただきました。講演では、それぞれの視点から話をしていただき、共通していた点は、僧侶の在り方への疑問・不満が挙げられると思います。現状の僧侶の立場、役割は「死後の供養」というものがメインとなると思います。もちろん、それだけにとどまらずに活動されている方もおられます。ですが、求められている事は幅広くなってきたのでは、と思います。その中にカウセンシング、スピリチュアルケア、そしてボランティア委員会のテーマでもある「傾聴」といった精神的なケアが必要とされているのです。つまり、この役割が確立、浸透すれば、いろいろな方の助けになり、我々には社会の貢献になるのではないのでしょうか。

ボランティア委員 市岡 宣展

今期、ボランティア委員会としての活動方針は、「傾聴（心に寄り添い、向き合い、感じ合う）」であります。その中で、今回のシンポジウムは、まことに意義深いものであります。まず、第一印象は、浄土宗の取り組みには感服の一言でした。「考えて、調べて、書いて、発信する」ということを僧侶交えて積極的にやっていると感じ

ました。時代に則した布教のあり方を施設やイベントから学ぶことができました。シンポジウムのテーマ「死への準備」について、ある末期がんの患者を仮定しその対応を個々に書いて、対処法を考えたり、その対処法を検討したりしました。正直なところ、このように具体的な検討会スタイルは初めての参加で新鮮でした。そして、かねてより書物でしかお会いすることのなかった、カールベッカー先生と相まみえることができ、このご縁に心から感謝いたします。

ボランティア委員 大徳 順寛

今までこの様な事に参加した事が無く、死について他の人の考えを聞く機会が無かったのですが、私自身、僧侶として死ということは身近に感じはいても、死に至るまでのその人の苦悩や恐怖までは、しっかりと理解していかねばと思います。頭や知識として分かっていたかと思いましたが、死というものが、本当に身近になった時に、取り乱したり、悲しみに暮れたりしてしまうかもしれないと思えました。これから、僧侶として、多くの人の死を経験する事になり、その中には、自分の身内や仲の良い友人の死とも、向き合わなければならないと思います。自分の命は一つなので、自ら「死」を体験する事は出来ず、死を迎える人に対し、僧侶、家族、友人としてどのように対応して良いのか、正直言って、現時点では、分からなく、自信がありません。しかし、多くの人の死を体験し、死を頭で理解するよりも自分の心で感じ、死を迎える人やその家族の身になって考えれば、少しでも死を迎える不安や恐怖、悲しみを和らげられるのではないかと思います。そのために、日々人として僧侶として、感じる心を磨いていきたいと思えます。

新潟県中越沖地震 復興支援活動報告

全国曹洞宗青年会ボランティア委員会 委員長 瀬田 啓道

〔人的被害〕

新潟県…死者11人／重軽傷者1、960人
柏崎市…死者10人／重軽傷者1、339人

〔建物被害〕

新潟県

①住 家…全壊993棟／大規模半壊493棟

半壊2、805棟／一部損壊34、529棟

合計…38、820棟

②非住家…30、550棟

柏崎市

①住 家…全壊791棟／大規模半壊319棟

半壊1、980棟／一部損壊24、143棟

合計…27、233棟

②非住家…24、173棟

初動時

七月十六日十時十三分、新潟県上中越沖の深さ17kmを震源とするマグニチュード6.8の地震が発生。この地

震により、新潟県長岡市・柏崎市・刈羽村で震度6強を、上越市・小千谷市・出雲崎町で震度6弱を記録し、その後も余震が継続した。我われは、現地にボランティアセン

ターが設置され、宗務庁に災害対策本部、新潟県第三宗務所に現地対策本部の設置を確認後、全国曹洞宗青年会として現地入りした。

七月十九日十四時より現地対策本部の設置された新潟県第三宗務所・龍雲寺様において災害対策本部・現地対策本部会議が開催された。全曹青はSVAと連携して寺院復興支援活動・行茶活動・柏崎市ボランティアセンターでの一般ボランティア活動を行っていく。また各都道府県曹青・大本山永平寺・大本山總持寺・各専門僧堂・東北福祉大学・世田谷学園等に協力を依頼し、中・長期的な復興支援活動を行っていくことが決議された。

新潟県第三宗務所・龍雲寺様の門前の黒滝集落開発センターを「曹洞宗ボランティア本部」としてボランティア活動の拠点および宿泊所とした。全曹青は災害対策本部（宗務庁）・現地対策本部（新潟県第三宗務所・新潟県曹青・各県曹青・SVAと連携し、現地の調整および復興支援活動の実動的役割を担う。

SVAの方がたには柏崎市ボランティアセンターと曹洞宗ボランティア本部に一名ずつ入っていたいただき、避難所の状況や寺院復興支援活動状況等の関連情報を



親近感をもって悩みを打ち明けていただいた被災者の方がた

活動内容

○寺院復興支援活動

復興支援活動を行ったご寺院様は、福厳院・地藏堂・薬師堂・香積寺・普

集約し、相互の連携を綿密に行って現地の調整を全曹青とともに進めていた。災害対策本部（宗務庁）・現地対策本部（新潟県第三宗務所）・全曹青・新潟県曹青・各県曹青・SVAとの連携のもと、大規模な復興支援活動を行うに至ったこの度の経緯は、被災地における被災者の方がたの思いを非常に大きいものと感じている。

光寺・花栄寺・常福寺・虚空蔵寺・観音寺・妙照寺・東福院・洞雲寺・普伝院・普広寺・東光寺・竜泉寺の計十六ヶ寺。

復興支援活動内容は、本堂の須彌壇を元の状態に回復、本堂三尊仏の運び出し、位牌の運び出し、安置仏の移動、位牌堂の整理・片付け、本堂什物の運搬、庫裏内の片付け、墓地通路の石を移動、本堂の掃除・整理・片付け・運搬、石塔の片付け、仏具運びだし（専門分野に関しては業者の作業を補助）、ガラス等危険物の運び出し、本堂位牌整理・修理、墓地シート掛け、お堂倒壊現場の片付け、墓の外壁おこし、本堂・庫裡・開山堂の仏具の片づけ及び清掃、御本尊さまをはじめとする仏像・仏具・位牌清掃および移動、客殿清掃、本堂の屋根・壁を落とした後、その内部から廃材（瓦・木材・陶磁器・ガラス・プラスチック等）を分別して搬出。トラックに積み込む作業と専用の袋に詰める。専門の方三名と共同作業。

新潟県曹青主体となつて寺院復興支援活動を行っていた。多い日には一ヶ寺につき十一名、一日五ヶ寺の活動を行った。皆さまのご尽力により、大きな傷害・病気等もなく、円滑に復興支援活動が行われた。

〈注意事項〉

- ・寺院災害復興活動に携わった方がたの殆どが手作業での限界を感じ、重機等導入の必要性を訴えられる。
- ・重いものを移動中に一名が負傷。診察の結果腰部脱臼（ぎっくり腰）とのこと。無理は禁物。

*健康保険証（コピー可）は必ずお持ち願いたい。

・寺院復興支援活動において崩壊家屋は、危険防止のため絶対に入ってはならない。（赤紙・黄紙を問わず）

○行茶活動（避難所・仮設住宅周辺でのお茶出し）

長年暮らしてきた家を失った被災者の方がたと、お茶とお菓子を交えて触れ合い、生活のこと、これからのこと、今悩んでいることなどを聞き出し、それを我が事のように捉えて感じあう心のケアを目的とする。

避難所では計二十六ヶ所、仮設住宅では計三ヶ所にて行茶活動を行った。最多一日七ヶ所。



柏崎市内宗門御寺院様の崩壊した山門の様子

現地入りされた全曹青・各都道府県曹青・東北福祉大学等の方がたにより全国各地から寄せられたお菓子を、避難所・仮設住宅の被災者の方がたに届けた。高齢の方がたには温かいお茶とお菓子が、子どもたちには、かき水やカルピスがたいへん喜ばれた。新潟県曹青の方がたは、初めての行茶であつたが石川県曹青の星野正親師の能登半島地震における行茶の初期の状況と被災者の心に寄り添うことの大切さを話していただき臨んだ。活動の中で念頭に置いていることとして、あくまで被災者本位であり地元主体の活動を

行うこと。

夏休みに入り避難所では子どもが増加。被災者の方の疲労もピークに達していた。「夜に何度も目が覚める：目を閉じると二度と目覚めないような気がする：地震への恐怖や不安を早く取り除きたい。」という方が多く見受けられた。「空気が悪くて喉が痛い」「トイレに手すりがない」「足が痛くて段差もあつてつらい」など多数要望が上がつた。被災者の方がたには三〜五歳くらいの幼児や中学生も多く、会話の中から幼児のあせも・ひび割れ等が発症し兄弟間で感染しており、医療面

の充実を望む母親の悲痛な声も上がった。女子中学生たちは、お風呂に入ることができず、せめてシャワーだけでも浴びたいと話していた。また避難所には体育館のような施設もあるため「床がかたく、落ち着かない：マットが欲しい。」という要望も多く上がつてきた。プライバシー確保のために、衝立追加の要望があつたり、衛生面ではトイレは美化されてきたが、洗濯に困っている方も多かつた。ある避難所では、体育館は立ち入り禁止で、被災者は玄関の上がり口に薄いマットを敷き、ゴザの上に寝泊まりする環境で、高齢の方の床ずれや体力の消耗が心配された。女性はトイレで着替える事もあり、「更衣室が欲しい」との声も上がつてきた。また、子どもの遊び場がなく、お風呂に入るにも二時間三時間待ちという状況で、子どものストレスも解消する必要性を感じた。また、自衛隊をはじめ周囲の方はいへん親切に接してくれるが、担当者が変わるということでも、なかなか本音が言えないという方も多かつた。そんな中で私たちの行茶活動は、継続によって、一人でも多くの声を聞きとり、心のケアへと繋がるものであると改めて活動の重要性を実感した。仮設住宅にはさまざまな地域から集まつた方がたが同居しており、コミュニティ形成は困難が予想された。集会所外に机と椅子、ビーチパラソルを設置し、オープンカフェ行茶を試みた。



地元御寺院・SVA・全曹青各団体が共に行茶活動を行った

害対策本部(宗務庁)・全曹青・新潟県曹青・SVAに発信できるメールアドレスを作成し毎日報告した。

七月三十日、「曹洞宗ボランティア本部」が龍雲寺門前の黒滝集落開発センターから、新潟県第三宗務所龍雲寺室中に移転された。このことにより、現地対策本部と曹洞宗ボランティア本部との距離がなくなり、情報の共有化と綿密な連携が可能となった。また、曹洞宗ボランティア本部の業務は八時より十九時までとした。(時間厳守・残業はなし)

復興支援活動にご参加いただいた方がたは、長野第一曹青・長野第二曹青・山形曹青・静岡第一曹青・石川曹青・福井曹青・大本山永平寺・大本山總持寺・曹洞宗総合研究センター・大本山永平寺別院長谷寺・最乗寺・好国寺・善宝寺・西有寺・大栄寺・東北福祉大学・世田谷学園。全曹青・新潟県曹青・SVAは連携して曹洞宗ボランティア本部事務局を担当。ボランティア委員会からは、秋田・長野・岐阜・鳥取より参加。総勢二百四十六名。(八月三十一日現在。最多は七月二十四日の六十一名)今後は地元有志の方がたが活動を継続。

八月二十四日、十七時より宗務庁総務部福祉課の柚木課長・関根係長・SVA関課長を交え、今後の活動方針について話し合った。ボランティア本部による復興支援活動は、八月三十一日をもって終息とする。その後は、九月一日以降の行茶活動・寺院復興支援活動のニーズに対し、新潟県第三宗務所

より有志を募っていく。その有志による活動が開始された際は、宗務庁・宗務所・全曹青・県曹青・SVAがそれぞれの立場において最大限の協力を果たしていく方針とされた。

現地対策本部が主体となって行われた寺院復興支援活動と、曹洞宗ボランティア本部・柏崎市ボランティアセンターの連携により行われた行茶活動および一般ボランティア活動とが、この度の災害復興支援には必要となった。その幅広い活動が可能となった背景には、七月十九日現地対策本部で行われた災害対策本部・現地対策本部会議において決議された「復興支援活動は宗門関係のさまざまな団体に協力いただき、行っていく」という方針が活かされ、長期にわたり多数の宗門関係の方がたが継続して現地入りされたことが挙げられる。この宗門関係の協力体制の下、行われた復興支援活動は、悩み・苦しみを抱えた方がたの気持ちを我が事のように捉え、助け合い、支え合う「同事行」の実践を掲げている曹洞宗としても、心に寄り添い向き合い感じあう「傾聴」をテーマとさせていただいている全曹青ボランティア委員会としても大きな前進であると感じている。今後は宗門関係の方がたとの更なる協力体制の確立と、さまざまな方がたのご協力をいただき現地の調整・情報の集約等を行う曹洞宗ボランティア本部のシステムを見直し、より円滑な復興支援活動を行っていくことが課題である。

○一般ボランティア活動 危険家屋箇所の調査。

住宅破損状況調査。地図上に注意、要注意、調査済を色分けして記載する作業と「ぬくもり新聞」の配布。作業途中、一般の方からの要請で物品運搬の作業をお手伝いした。一般家庭の片付け。

○チャリティーサッカー教室

八月二十一日、十三時より柏崎市立鏡が沖中学校にてサッカー元日本代表監督の岡田武史氏とサッカー元日本

代表の岩本輝雄氏によるサッカー教室が、現地対策本部が中心となって行われた。六チーム約百四十名参加されて盛大に執り行われた。アルビレックス新潟のジュニアユースの選手たちも参加していた。

○毎日報告

毎日必ず活動を報告書にまとめ、十六時三十分より柏崎市ボランティアセンターにて行われるリーダーミーティングで報告し提出。一日の活動内容を文章にまとめ、災

まとめ

平成十九年七月十九日現地入り。柏崎市黒滝地区を拠点として活動。全曹青は七月十九日〜八月六日、八月十七日〜八月二十五日、八月二十八日〜八月三十日現地入り。お盆の時期と重なり、それぞれの方がたが現地入りするのが厳しい状況の中、現地対策本部・新潟県曹青・SVA・東北福祉大学の方がたのご尽力のおかげで、八月三十一日まで復興支援活動を行うことができた。

IT委員会

十七期のIT委員会が、今まさにやっていることは気の利いた情報提供や横のつながりを大切にしたコミュニケーションの可能性を研鑽し、どのようなツールを使い、どのような情報を発信するのか？ 委員一丸となって追及しております。試験的ではありますが、内部ではCMS (WordPress)「コードネーム：裏般若」やSNS (Open P.N)も運用を開始しております。ただそこで重要なことは「何をテーマに動いているのか？」ということですが、それはズバリ「感動」です。

全国には、インターネットやパソコンに興味を持っている方が沢山いらっしゃると思います。もしも、このような活動に興味がありましたら、組織の枠を超えて協力していただけませんか？ あなたの参加を「十七期IT委員会」の愉快な仲間たち」が心よりお待ち申し上げます。

ワンクリック (it@sousei.gr.jpにメール)で、「リアルな世界」見せる自信あります!!

委員長 吉澤 光雲(長野第一)

総務委員会

総務の役割は、一言で言うと「地味」だと思います。

「地味」というと負や陰のイメージがありますが、普段当たり前に感じる地面、大地のような存在に総務委員会が果たす役割というものがあるのではないのでしょうか。熱い意見が交わされる各会議の円滑な運営や、各委員会活動の成果でもある頒布物の管理等、全国の会員諸師の情熱あふれる活動を地面からしっかりと支え、さらにその「地味」に「味」のある活動ができると思います。

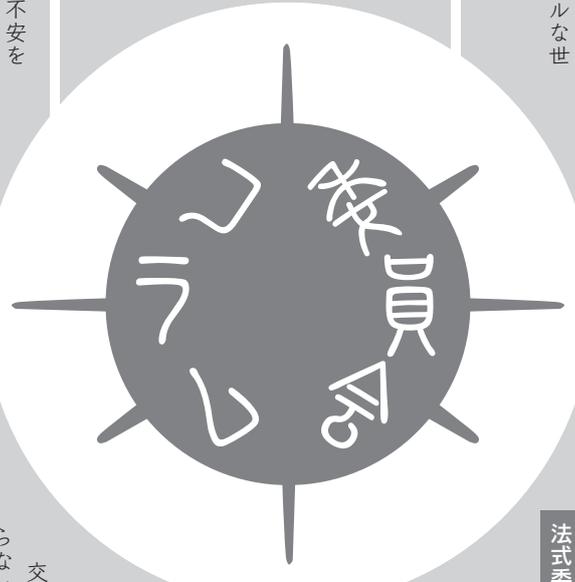
委員 加藤 勤也(北海道第二)

青少年教化委員会

私は初めての委員会で、ある不安を抱いていた。それは、今期の委員会活動が、出向く形の企画であることに各委員さんの賛同を得られるかどうかであった。だが、ふたを開けると私の不安は一掃された。私の意見に全会一致で活動していくことになったのだ。

そこで今期のメインタイトル「お坊さんとふれあおう!」のもと、子どもの生活の場である学校などへ、こちら側から出向く企画を開催することとなった。子ども達にとってはまさに非日常である僧侶との文化交流であり、かなりのインパクトを与えることになるだろう。そして、活動を通して子供達に「生かされている自分」を促し、「御蔭様」や「感謝」の気持ちをもてるような人づくりにつながれば幸いです。

委員長 慶徳 雄仁(岩手)



広報委員会

広報委員会は、全曹青の広報誌『そうせい』の編集を主たる活動としています。

全曹青は、全国の各曹青会の連絡協議会ですから、全国津々浦々の曹洞宗青年僧侶の諸活動が骨組となっております。なので、青年宗侶の熱い思いを誌面で紹介することこそが、「そうせい」の本務であると心得ております。

地道な活動、アクロバチックな活動、奇抜なアイデア等々、どしどし情報をお寄せください。

副委員長 青野 貴芳(静岡第一)

法式委員会

法式委員会では今期の目標としているD1G1「そうせい」声明の手引き(仮題)を作成中です。これまで当委員会にて頒布した「萬燈供養」及び、「祈祷太鼓」の手法を踏襲するため、基礎となる練習用教材の声明の節回しを、永平寺副監院春木龍仙老師からご教授いただきました。

さらには九月十一日に、長崎県壱岐島にて「壱岐歎仏」の様子をビデオ撮影しました。今後は、さらに各地の法要の様子や、他宗派の声明に関する資料を集めたいと希望しています。

委員長 菅原 研洲(宮城)

ボランティア委員会

八月下旬、中越沖地震被災地の柏崎は、仮設住宅への移行がほぼ落ち着く頃。入居している被災者同士は面識がなく、交わす会話もまだ少ない。設置された集会所の存在すら知らない住民もいる。今後数年、一つの「まち」として生活を共にする上で、コミュニティ形成は不可欠である。過去の災害にも...

とある仮設住宅集会所での行茶活動の折、整体師の資格を持つ男性がおられた。その治療院は地震で崩壊、夫婦ともケガをされた。しかしながらケガが治ったら「今日みたいに仮設のみなが集まって、そこで身心のケアをしていきたい」とボジティブに話してくれた。

被災地外からやって来て、滞在期間に限りがある我々のできることはほんの僅かだ。せめて「被災者同士が支え合って元気を取り戻したい」という気運が高まらるきっかけに、多少なりともつながることを願う。

副委員長 新川 泰道(秋田)

155	141	135	113	111	79	36	7	1	愛媛県	高知県	190	184	172	140	119	105	78	65	63	59	5	島根県第二	332	330	島根県第一	176	166	163	159	156	154	146	133	127	55	48	30	28	22	18	鳥取県	
禅興寺様	瑞応寺様	秀禅寺様	西禅寺様	大通寺様	成福寺様	香林寺様	法華寺様	高昌寺様	永禅寺様	浄土寺様	宗圓寺様	総覚寺様	法蔵寺様	常光寺様	東白寺様	全隆寺様	宗泉寺様	龍覚寺様	清光院様	地福寺様	興源寺様	正法寺様	興源寺様	延暦寺様	大慈寺様	雲光寺様	大祥寺様	福厳院様	瑞仙寺様	妙栄寺様	妙元寺様	住雲寺様	中興寺様	讓伝寺様	長通寺様	森福寺様	隣海院様	龍岩寺様				
227	224	121	119	65	55	35	24	宮崎県	熊本県第二	60	249	231	151	117	27	18	佐賀県	長崎県第三	101	88	78	55	8	1	長崎県第一	100	58	24	大分県	163	158	107	103	102	77	21	15	福岡県	159			
岩松院様	玄照寺様	浄光庵様	龍洞院様	柳原寺様	多宝寺様	法泉寺様	全長寺様	明徳寺様	含蔵寺様	正藏寺様	福田寺様	幸福寺様	本光寺様	長泉寺様	久善院様	南明寺様	慈光院様	宝泉寺様	瑞雲寺様	円福寺様	皓台寺様	勝光寺様	泉福寺様	海門寺様	金泉寺様	報恩寺様	天徳寺様	天聖寺様	能満寺様	太養院様	永見寺様	龍国寺様	宝珠寺様									
117	112	53	33	619	553	519	514	新潟県第三	新潟県第二	700	503	496	475	439	412	397	380	364	343	146	83	富山県	1	石川県	242	165	145	27	9	福井県	541	536	421	389	386	379	364	279	265			
积尊寺様	常安寺様	英林寺様	洞泉寺様	寶壽院様	安住寺様	少林寺様	長命寺様	剛安寺様	龍源寺様	長楽寺様	天昌寺様	林興庵様	甌洞庵様	善昌寺様	妙雲寺様	永明寺様	慈眼寺様	明禅寺様	永久寺様	天徳院様	清福寺様	長泉寺様	瑞林寺様	龍澤寺様	永昌寺様	観音寺様	宗源寺様	青原寺様	宗福寺様	西福寺様	瑞雲寺様	龍昌院様	大徳寺様	蕃松院様								
340	338	324	320	318	304	294	278	275	274	258	254	246	227	226	175	174	173	162	154	143	139	133	131	125	123	121	111	106	101	63	25	14	福島県	794	733	303	265	236	217	196	186	178
慶徳寺様	西光寺様	松泉寺様	蔵門寺様	安徳寺様	梵音寺様	東光寺様	浄円寺様	性源寺様	龍門寺様	龍昌寺様	同慶寺様	長徳寺様	龍台寺様	常隆寺様	天沢寺様	龍徳院様	長慶寺様	昌建寺様	雲月寺様	西光寺様	徳成寺様	永祿寺様	天性寺様	勝音寺様	金剛院様	長泉寺様	普光寺様	興隆寺様	成林寺様	昌源寺様	安洞院様	円通寺様	延命寺様	光明寺様	大儀寺様	東林寺様	東岸寺様	諸善寺様	香伝寺様	龍澤寺様	清流寺様	
170	153	133	124	122	75	54	52	44	25	17	13	岩手県	432	427	418	405	371	322	296	295	252	237	205	198	192	129	123	115	114	112	94	88	60	31	24	22	16	宮城県	446	377	370	352
長慶寺様	珠光寺様	大林寺様	西光寺様	石洞寺様	宗青寺様	龍岩寺様	福蔵寺様	江岸寺様	宝積寺様	清水寺様	長善寺様	耕田寺様	双林寺様	光明寺様	峯仙寺様	頼光寺様	長谷寺様	龍洞院様	松巖寺様	福厳寺様	円通院様	竜川寺様	積雲寺様	大祥寺様	自徳寺様	恵林寺様	円竜寺様	東禅寺様	法雲寺様	秀麓齋様	耕田寺様	柳澤寺様	全玖院様	妙心院様	光寿院様	林香院様	天宗寺様	宝積寺様	秀長寺様	大同寺様		
565	553	510	468	449	346	329	267	山形県第三	山形県第二	214	201	182	163	93	76	36	32	24	5	185	110	98	91	78	25	17	青森県	288	285	278	270	260	252	247	244	242	227	216	201	197	171	
田種院様	泉流院様	西光寺様	宗伝寺様	宝積寺様	長福寺様	高国寺様	慈眼院様	長泉寺様	東照寺様	養源寺様	向陽寺様	性源寺様	正法寺様	久昌寺様	安養寺様	養千寺様	光禅寺様	観音寺様	長昌寺様	東光寺様	寶福寺様	海安寺様	川竜院様	普門院様	長福寺様	好心寺様	宝鏡院様	海蔵寺様	西来院様	柳玄寺様	正福寺様	江岸寺様	大慈寺様	安養寺様	善龍寺様	東川院様	常川寺様	光西寺様				
311	307	279	266	260	212	206	202	193	181	174	169	153	136	135	128	106	78	52	47	秋田県	738	735	728	718	671	659	630	629	626	623												
全応寺様	信正寺様	宝昌寺様	松源院様	松庵寺様	靈仙寺様	松雲寺様	重福寺様	祇園寺様	黄龍寺様	満福寺様	安楽寺様	龍泉寺様	長谷寺様	永岩寺様	耕伝寺様	長禅寺様	大蔵寺様	陽廣寺様	東傳寺様	善応寺様	冷泉寺様	泉宝寺様	長瀨寺様	海禅寺様	持地院様	宝泉寺様	善光寺様	見政寺様	歡喜寺様													
331	225	151	北海道第三	451	379	252	187	117	113	109	北海道第二	468	367	327	257	96	95	85	61	39	18	5	北海道第一	339	338	323	322	321	313													
潮音寺様	明光寺様	大澤寺様	永泰寺様	法音寺様	清水寺様	放水寺様	中央院様	万松院様	北漸寺様	養福寺様	観音寺様	大有寺様	高台寺様	龍興寺様	中央寺様	龍巖寺様	正覚院様	高聖寺様	大泉寺様	円満寺様	恩徳寺様	大円寺様	鏡得寺様	立昌寺様																		

全国曹洞宗青年会の活動は
 皆様の賛助会費等によって
 支えられております
 この度も御協力頂き
 誠に有難うございました

「禪」知識
まんたら 2

縁起の観察

ギヤナ・ラタナ長老

縁起の法は、釈尊の最も重要な教えの一つであり、たいへん深遠でもありません。

縁起に対する実際の洞察は、心の成熟に伴って生じてきますが、それでも、その込み入った理論を理解することは、一般の人にもできません。縁起の基本は、生命あるいは世界が諸関係に基づいて構築されていることです。そして、その関係の中で、諸要素は、それを条件づける他の要素に依存して生じ滅します。この原理は、四行の短い定式の形で表現することができます。

「これがあるとき、彼がある。」

「これが生じるとき、彼が生じる。」

「これがないとき、彼は滅する。」

「これが滅するとき、彼は滅する。」

存在の生起・維持・消滅は、この相互依存と関係性の原理に依拠していません。この原理が、縁起の法として知られています。この法は、すべての現象は関連しており、条件づけられており、補助的な条件なしに独立して生じることはないという重要な原理を強調しています。

1. 縁起を学ぶ目的

人間の生は、常に不完全なものです。なぜなら、さまざまな快・不快のある迷いの世において、心は欲に満ちているからです。人間は、不安であり、欲を満たそうとあがきますが、誰も満足することはできません。あがけばあがくほど不安になり、苦しみが、いつでもつきまといまいます。調和や満足は、どこにもありません。なぜなら、人びとの心は、無知に支配されているからです。それゆえ、常に不完全なのです。

もし、心の中に潜在している衝動や欲望を克服する道を見出そうとするなら、縁起を学ぶべきです。釈尊の超越的な智慧であるこの法は、人びとを巨大な苦に没入させ、不安で一杯にする不善法を撃退する鍵となります。それにより、平安と満足が、すべての人の心に現れるでしょう。

縁起は、すべての仏教徒が学ぶ必要がある真実です。なぜなら、それは、四念住（念と智慧を、身体、感覚、心、法の観察に用いること）の実修によって、心の状態を理解するための方法だからです。この実修は、苦と苦の原因

を理解し、苦を止息させる方法を知るために行われます。智慧が生じるまで法を実修するのだといえます。智慧が現れたなら、無知は消去されます。

縁起は、修行者が智慧を理解し増大するために、細分化され分析されます。彼らは、縁起の各段階を、存在のサイクルの中において、順番に観察しなければなりません。そして、無知の消滅が引き続いて起こります。智慧は、存在のサイクルを明確に理解することに伴って生じます。真実の姿が現れ、生老病死に関する疑惑が解消されます。苦の本質が理解されるに伴って、生老病死の苦が弱まります。この気づきは、人を輪廻から解放するでしょう。

2. 釈尊の方法

釈尊が、無知が苦の根本原因であることを発見したとき、連続的な心の状態の流れに深く埋蔵された潜在的な性質を滅ぼすため、彼は、超越的な智慧である四聖諦の方法を用いました（四聖諦には、縁起の観察も含まれると考えてよいでしょう）。続いて、かれは、三界（欲界、色界、無色界）における

総合御寺院用仏具専門店
株式会社 七福商事
福祿堂 佛具店
フリーダイヤル 0120-77-2969
【ホームページ】<http://www.shichifuku.ecnet.jp>
本社・工場 展示場 福岡県八女郡広川町日吉 1407
関東営業所 埼玉県加須市久下4丁目1-2

3. 十二支縁起

縁起の生起は、次の通りです。無明（無知）によって行が生じる。行（形成力）によって識が生じる。識によって名色が生じる。名色によって六入が生じる。六入（六感覚器官）によって触が

我の無常性と無我を悟りました。それゆえ、無知は智慧によって撃退されます。釈尊は、四聖諦の方法によって、業の形成力を完全に消滅し、苦の生起の罫から自らを解放しました。出現する超越的な智慧は、修行者の胸に輝く徳の光に比せられます。まさしく今日に至るまで、釈尊の追従者は、常に幸福で平安でありました。

生じる。

触（接触）によって受が生じる。受（感受）によって愛が生じる。愛によって取が生じる。取によって有が生じる。

生によって老・死・愁・悲・苦・憂・悩が生じる。

一方、無明の消滅によって行が消滅し、乃至、老・死・愁・悲・苦・憂・悩が消滅します。

4. 観察されるべき縁起の構成要素

(1) 無明とは、四聖諦を知らないことです。

(2) 行とは、意志に基づく行為です。身・語・意の三種に形作られます。

(3) 識とは、六つの感覚器官を通じて、感覚の対象についての意識が生じることです。すなわち、視覚器官→眼識、聴覚器官→耳識、嗅覚器官→鼻識、味覚器官→舌識、触覚器官→身識、意→意識が生じます。

(4) 名色のうち、名は、肉体の中にある心のことです。それは、本質的に微細なものです。色は、可視的な肉体のことです。

その本質は、粗大であり、地水火風の四大元素の集合体です。

(5) 六つの感覚の対象である色声香味触法とそれぞれに対応する六つの感覚器官が会合し、六種の認識が生じます。

(6) 触とは、感覚器官と感覚対象と結果として生じる認識とが結合することです。すなわち、眼識→視覚器官→色、耳識→聴覚器官→声、鼻識→嗅覚器官→香、舌識→味覚器官→味、身識→触覚器官→触、意識→心→法というように接触します。

(7) 受は、感覚を生じた対象を経験することによってもたらされ、それは、快・不快・無関心のいずれかです。

(8) 六つの感覚対象に対応して、六種の渴愛があります。すなわち、色への渴愛、声への渴愛、香への渴愛、味への渴愛、触感をもたらずものへの渴愛、心の対象への渴愛です。

(9) 取は、感覚対象と五蘊に執着することです。また、官能への執着、見た目への執着、規則や儀式への執着、我への信念（五蘊が我であるという信念）への執着があります。

(10) 有とは、衝動と感情に充ち溢れた、探し求める心です。それは、渴愛に支配された通常の人間が持つ心です。また、以前の肉体的な形と生命への執着の結果として、存在への渴愛によって再生を望む人の心でもあります。

(11) 生とは、再生のことであり、精神的肉体的現象が生じることで、男女がお互いに執着しあい、交わった結果、五蘊と感覚を具え

た存在が生まれます。

(12) 老とは、髪が白くなったり、歯が抜けたり、肌に皺が寄り、感覚器官の衰えたりなどの衰退を意味します。これらは無常の姿であり、苦に満ちています。死は、移ろい、崩壊であり、五蘊の解体であり、感覚器官の消滅です。

すべての苦の源は無明であり、それは、植物に喩えられます。植物は、根、幹、葉、花、果実を具えた木に成長します。しかし、その根源は見つかりません。同様に、有情の肉体的精神的な要素は、無明によって生じますが、さらにその起源を遡ることはできません。それは、縁起の連鎖として既に現れているのです。

5. 結論

上記の説明により、通常の人間は、縁起の連鎖を一時的に止めることしかできないことは明らかです。なぜなら、五蘊についての超越的な智慧を持たないからです。一方、聖者は、超越的な智慧により、連鎖を永遠に停止することが出来ます。彼は、決して再生しません。それが、真の消滅であり、燃料の完全に尽きてしまった火が消えるのに似ています。五蘊は、智慧の出現によって真に理解されます。そして、智慧の出現こそが、瞑修行が真に目的とするところなのです。



ギヤナ・ラタナ (Gyana Ratna) 長老
一九六八年生まれ、バングルデシユ、チッタゴン出身。十二才で出家。チッタゴン大学英文学科、マハチュラロンコン仏教大学(タイ)に学ぶ。一九九四年来日。現在、愛知学院大学非常勤講師。文学博士。世界仏教青年連盟アドバイザー、マハマンタル福祉協会(バングルデシユ)副会長。主善に「上座仏教の瞑想実践法(英文)」がある。

大道長安（一八四三〜一九〇八）とは、「越後の今釈迦」として尊崇された傑僧である。混迷した明治期に、独自の観音信仰を打ち立てた「救世教（ぐせいきょう）」を開いて世に広めたことで知られる。

長安は、天保十四年（一八四三）四月一日に現在の新潟県新発田市で生まれ、嘉永元年（二八四八）七月に同県長岡の長興寺で泰道泉明に就いて得度し、名は禅透となった。後に、泰道の法嗣である柏庭大樹に師事して、大いに研鑽を積んで嗣法する。その修行中、大樹が手に油を注いで灯火とし、三十三幅の観音像を書き上げた。大樹は、禅透に立派な僧侶になって欲しいことと、衆生の冥福を祈るために書いている、と告げた。このエピソードが、後の観音信仰を生んだともされる。大道長安という名は、大樹が最後に住した岡山県津山市の大道山長安寺から採った。

長安が救世教開宗を発願したのは、明治八年に長安寺を退董し、新潟に帰るときだった。新潟に帰るや師翁の泰道が住した長興寺に晋山するが、弁舌が巧みな長安が行った毎月八回の説法会は、常に本堂を聴衆で満員にした。さらに高い布教能力を請われ、明治十九年までに授戒会の戒師を四十八会務め、戒弟は一万三千八百八十六名を数えたという。

明治十九年一月、今後は救世教を自分の活動の中心とする誓願を立てたが、活動の拡大により宗務局と対立し

た。その際、宗意安心を調べるとの理由で喚問された長安を待っていた取り調べ人は、在家の大内青巒居士であった。長安は、それを心外に感じて帰山し、同年六月には救世教開教の宣言を行って僧籍から離脱し、宗門も長安を

され、一菩薩ではなく、仏の名前であり仏の教えの全体を顕すとされた。江戸時代から明治時代へと社会が変化する状況に、強く観音信仰を打ち出すことで安心を確立しようとしたのだろう。理念は、さまざまに分派した仏教の



だ い だ う ち ょ う あ ん 大道長安

とし、孤児の育成や被災者一万人の救済を大きな目標として、貧しき者を救い、福利厚生に努め、家庭説教の実施、病院・刑務所での教誨活動など、仏教精神に根差した社会福祉事業が行われた。運動資金は、文才豊かな長安自らが書籍を著し、講演を行って貯蓄しつつ、自身は一汁一菜に甘んじることで、明治十年には当時の金額で一万円を積み立てて基金となした。

教線拡大できた理由は、在家篤志者の支援に加え、「救世の光」なる教団誌を定期刊行したことなどがある。活動開始から六年も経つと、東京本郷に本部の救世会館を設立したが、長安が明治四十一年六月十五日に世寿六十六歳で遷化すると、救世教の活動も徐々に終息へ向かった。

長安の生涯や思想は、堀野賢龍氏編集『大道長安仁者全集稿本』（救世教本部）が詳しい。また、大本山總持寺貫首・大道晃仙禅師は「大道長安の研究」（便利堂）を上梓されて、長安の顕彰に努めておられるが、それに収録される頂相を拝見すると優しそうな目が目を引く。仏教界の改革を声高に説いた長安であったが、ご自身は慈悲溢れた方だったのではないかと思います。

擯斥したのであった（没後三十三回忌に特赦で僧籍復帰）。救世教の教義の特徴だが、拠り所となる経典は『観音経』に定めた。本尊の観音菩薩は、仏像や仏画などへの抽象的な信仰は求めずに直接参じるべきと

教義を融合し、寺檀関係を脱した実質的信仰を確立し、伝道者は僧侶・俗人の形を問わない等、旧来の仏教を改革することを望んだ。活動は、自力・他力を超えた妙力によって社会での救済を具体化すること

文：菅原 研洲（すがわら けんしゅう）
一九七五（昭和五〇）年、宮城県生まれ。
駒澤大学大学院仏教学専攻博士後期課程満期退学。現在、曹洞宗総合研究センター宗学研究部門研究員、全書書法式委員長を務める。宮城県城国寺副住職。
画：山田 剛弥（やまだ たかひろ）

菜食健美

典座寮お役立ちナビ②

― 献立作成と調理 ―



前回より引き続き、授戒会(大法要)における典座寮(調理場)の体験談を、私なりに綴ってみることにします。

今回は「献立の作成と調理」です。実際に献立を作成してから、各自担当して調理に取り掛かるわけですが、繰り返し返すように安心・安全な食事を差し

出すことを忘れてはいけません。

御開山道元禅師様も『典座教訓』に「仰っている通り、典座は旨い料理を作る『料理人』となつてはいけません。また、『赴粥飯法』に記されるよう「三徳六味」の三徳として、軽軟(軽やかな味つけで、如法作(手間を惜しまず)、清潔(清潔で行う))を心がけて行うことが肝心です。

おおよそお弁当箱に食材が盛り込まれて差し出される場合が多いと考え、ご飯と別菜(おかず)が三品〜五品添えて一人分となるくらいがバランスのとれた一食になりましょう。

献立と細かな心配りとして

①ご飯の計算は一合を三人分として計算し、合計人数から算出
弁当箱に入のご飯のスペースは、さほど大きくないので、この量で足りる。

四つに仕切りがあるものとすれば、残りのスペース三ヶ所に別菜(おかず)を盛りつけ、煮物、和え物、炒め物、時には揚げ物とバランスよく献立を立てましょう。

② 白いご飯と色ご飯

小食(朝ごはん)は白いご飯で良いでしょうが、その他中食(昼ごはん)・薬石(晩ごはん)には、炊き込みの五目ご飯・わかめご飯・きのこご飯など、飽きのこないよう交互に出すと飽きることはないでしょう。

白いご飯時には味噌仕立てを、色ご飯時には澄まし汁として分ける
と良いでしょう。

③漬物或は梅干を毎食つけると便利
食後に、お碗へお茶を注ぎ、漬物や梅干でお碗等をすすぎ、食事も禅寺の僧堂飯台に準じたものと捉えるべきでしょう。

④炊飯の失敗例として

大き目の炊飯器は、火力も強く短時間で早く炊き上がりたいへん便利ですが四升釜や五升釜にもなる
と、大きいので足元に直接置くことになり、つい慌ててその付近を通過した人が釜と接触し、ご飯が半分しか炊き上がらない苦い経験があります。最新のガス釜は、安全装置が働き自動的に僅かな振動でも電源が切れてしまうのが原因

と見られます。従って、調理する側はこの点を充分に気をつけてください。

⑤調理場は室内ばかりとは限りませんが調理場は、室内に限らず、時には外に仮設のテントを張り、調理台を設営する時もありますので、ガスコンロや流し台、まな板の場所などは、調理後に毎日掃除、整理整頓をなして次の作業に取り掛かりやすいようにしておくべきです。

突然、予期せぬこともおこります。たくさん冷や汗をかいて皆が成長していきます。

くれぐれも怪我、やけどのないように注意し、寮員はチームですので、ミスや皆でカバーしあう事が成功・円成となるのです。

文 白澤 雪俊(しらさわ せつしゅん)

昭和四十五年、青森県弘前市生まれ。十八歳で永平寺別院に安居修行しながら、駒澤短期大学(仏教科)に学ぶ。卒業後一年間東京都港区の青松寺に随身(住職にお任せし学ぶ修行僧)として過ごした後、福井県曹洞宗大本山永平寺にて、七年間安居修行をする。この七年間の中間三年間を典座寮に配役される。永平寺送行後、大本山永平寺東京別院長谷寺副典として再安居。現在、青森県弘前市普門院副住職として師匠を補佐する傍ら、精進料理に関する講演などの布教活動に務める。第十七期全国曹洞宗青年会青少年教化委員副委員長。著書：「身体にやさしい料理をつくろう」(ニートンプレス) ホームページアドレス <http://www6.ocn.ne.jp/~yamakan/>



「寺族問題」への扉

愛知県 川橋 範子

私は「寺族歴」十六年の大学教

員である。住職と大学教員を兼業する男性僧侶は、宗門ではさほど珍しくもない。しかし私の場合はなぜか、「お寺を留守にするのは大変でしょう？」とか、「ご住職は理解があるんですね」、などの声を聞くことがある。

私は大学で「ジェンダー」（簡単にいうと社会・文化的に作り上げられた性別役割）と、宗教の関係について教えることがある。現代の仏教教団における寺族女性の役割は、住職とともに教化活動に携わるのではなく、寺の跡継ぎを育て、住職の日常の世話をし、裏方として寺を「守る」ことに

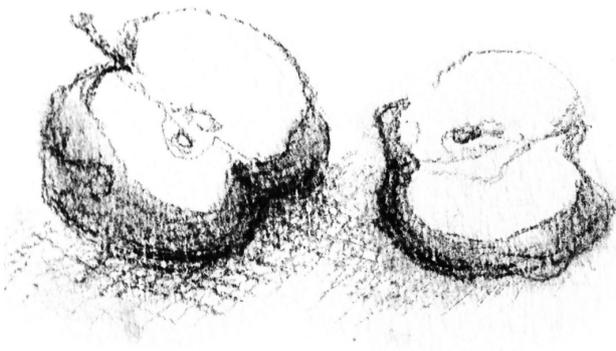
●●●●●

とどなかつた。

しかし、その状況が目覚しく変わりつつある。前回の広島県の寺族、友貞さんのエッセイは、昨年末に宗務庁で開かれた、宗門の現況に対する寺族の意見を聞く会の様子を的確に伝えている。この会の報告は『宗報』にも連載されていたので、ご存じの読者も多いはずである。そこでは、一般の寺族たちによる宗門への怒りと憂慮と苛立ちの声が聞かれ、寺院の女性たちが、男性僧侶と寺族の関係に批判的な眼差しを持っていることが実感できた。友貞さんも取り上げていたが、「もっと人間的で優しい僧侶を育成するべき」という主張

あるように見える。残念ながら、女性としての寺族に期待される性別役割は、住職の対等なパートナーからはかけ離れているようである。この関係に男性僧侶の多くは疑問を持たないためか、女性たちの心の声が表舞台で取り上げられることはほ

は特に納得できた。実際、自分のもっとも身近にいる女性を対等なパートナーとして尊敬できないまま、僧侶として世間の尊敬を集めることに熱心な男性僧侶が、若い年齢層にも目に付くからである。彼らを見ていると、師匠である親の代から続く、寺の中の住職と寺族の主従関係に疑問をもたず、ましてやなぜ「出家」を建前としているのに結婚しているのか、などと自分に問いかけたこともないのでは、と感じられてしまう。



大学の授業で、エンジニアを指す一般家庭の男子学生のレポートを読んでみると、嬉しい発見がある。ある学生が、自分の彼女が大学院で薬学を学びたいと言ったときに、「女の子なんだからそんなに勉強しなくていいよ」と言ってしまったことを反省するレポートがあった。彼は、ジェンダー問題を勉強していくうちに、もしも立場が逆転して自分が女性として彼氏からそう言われたらどんなに悔しいか想像できるようになり、自分の発言を最低だと恥じたという。レポートの最後は、彼女の夢を心から応援できる男になりたい、と結んであった。宗門の男性僧侶にもこのような想像力を期待したいのである。

なお、女性僧侶もふくめたさまざまな宗派の女性たちが、仏教教団のジェンダー平等を求めてネットワーク活動をしている。この運動については、『ジェンダーイコールの如是我聞』女性と仏教―東海・関東ネットワーク編著（朱鷺書房二〇〇四年）を参照されたい。

* そうせいサロン

哆々和々

十七期が発足して五ヶ月が経過しました。お陰様で、スタッフ一同それぞれに非常に良くまとまった活動が展開されていることを実感しています。

一方、あまりうれしくない出来事も頻発しております。台風地震大雨といった自然災害、未成年による痛むべき犯罪などです。それらの事象に於いて私達を含めた宗侶が果たしていく、宗侶だからこそ成せることがあると思います。

例えば、地震災害に於いて被災された方への行茶活動の実施は能登以降私達の活動の中心となりました。事件、災害を問わず、そこにいる人達、苦しんでいる方がたのために出来ること、たとえそれが声を聞くだけだとしても、それを為すことと続けることが、誰かの安心に繋がっていくと私達は信じています。

また、新潟県中越沖地震における支援活動を、地元新潟県曹青会の皆さんを中心として、全国各地の曹青会の皆さまの手を借りて実践することが出来たことは、私達の実感している真実でもあります。対策本部は解散しましたが、これから復興に向けたさらなる時間が待ちかまえています。そして、時を待たず自然災害は発生し、同時にニュースのトピックスにさまざまな事件は取り上げられます。すべてを網羅することは叶いませんが、私達の活動が一人でも多くの方の笑顔のきっかけになれるように願ってやみません。「安心」それはまさしく笑顔の繋がりと考えます。それは、私達十七期が背負った大きなテーマです。

全国曹洞宗青年会 会長 芳村 元 悟

編集後記

第十七期広報委員会が発足して早や半年がたち、新たに導入されたウェブ上での編集活動も少しずつ慣れてきました。

今年の夏は猛暑日の連続で熱射病で亡くなった方も多く、地球の温暖化が一段と進んだように思えます。三月の能登半島地震に続き、七月には新潟県中越沖地震が発生し多くの方が被災されました。自然と人間との共生が、人間による地球開発行為によって破壊されつつある今日です。未来の人類、地球はどうなるのでしょうか。もつと真剣に考えるべき問題かと思えます。

今号で第三回目となりました「曹洞宗の袈裟に学ぶ」では、私たちが搭けているお袈裟の中で最も身近な絡子の原点を明らかにしようとしてされています。祖師の護持していたお袈裟を写真で紹介され実証されています。手のひらにのる程の縮小した小衣は一般の「お守り」のようなものでありますが、僧侶の「お守り」こそ小衣であり、僧侶たるを認識するためのものではないでしょうか。護持の精神を学んでいきたいものです。

〈お詫びと訂正〉

前号一三八号（平成十九年七月五日発行）にて、訂正箇所がありました。

ここにお詫びして訂正申し上げます。

一、三頁左下 佐々木宏幹先生のプロフィール中 右から三行目「センター主任研究員」↓「センター客員研究員」

二、十五頁 中段写真キャプション

「瀨丈詞師」↓「九州曹青新会長として挨拶を述べる瀨丈嗣師」

「そうせい」に対するご意見・ご感想、また、発送部数に関するご要望は下記の連絡先までお願いいたします。

○あて先 〒273-0865 千葉県船橋市夏見6-23-3 長福寺内 そうせいサロン係

FAX (047) 436-6808 河村まで

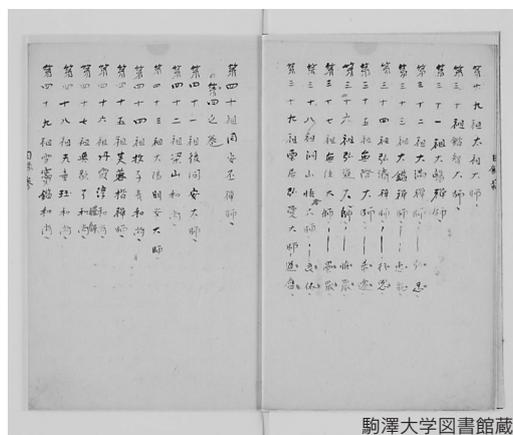
ネットで愉しむ 禅籍サーフィン



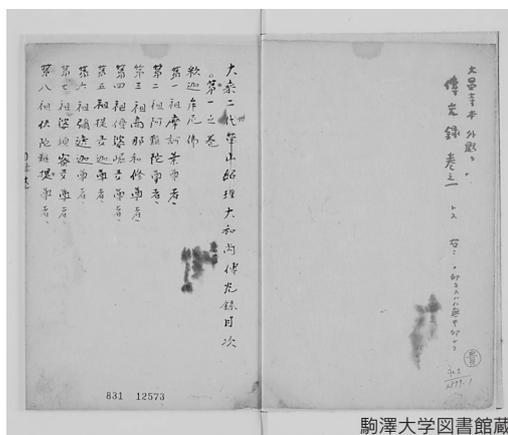
収藏品紹介

『大乘二世瑩山紹瑾大和尚伝光録』

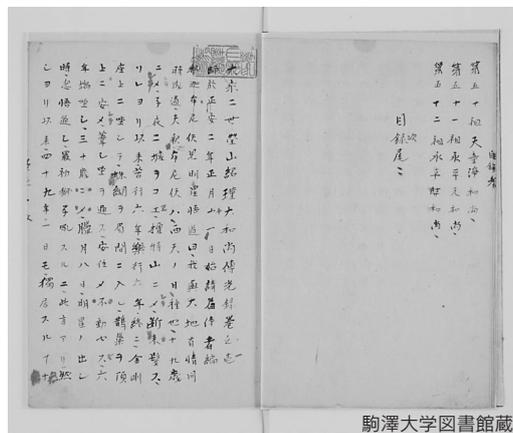
今回は、道元禅師『趙州四門斷簡』につづき、大乘寺二世瑩山紹瑾禅師（一二六八—一三二五）による『伝光録』をご紹介します。詳しくは題を『瑩山和尚伝光録』といい、原著は二三〇〇年（正安二年）に成立しました。2巻本。正安二年、大乘寺内で瑩山紹瑾禅師が書かれたものを徐々に侍者や側近が筆写し、まとめたものであるといえます。これまで数多くの写本に残っていますが、1巻にまとめられているものから6巻にまたがるものまで形態はさまざま。いくつかの写本を比較校訂して出版したのが、いわゆる仙英本で安政四年の刊行。（現存の『伝光録』写本についての詳細は『新版 禅学大辞典』（東京…大修館）892ページをご参照ください）



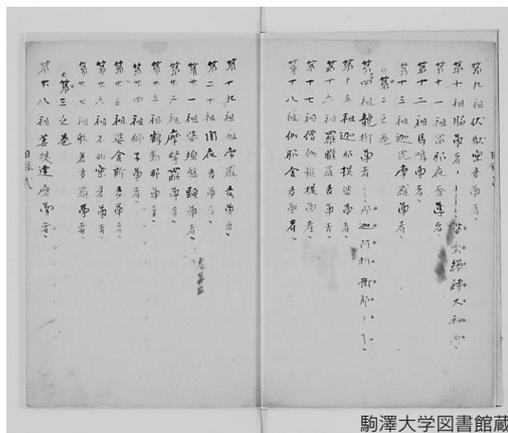
駒澤大学図書館蔵



駒澤大学図書館蔵



駒澤大学図書館蔵



駒澤大学図書館蔵

宗法衣に心をこめて

余 株式会社

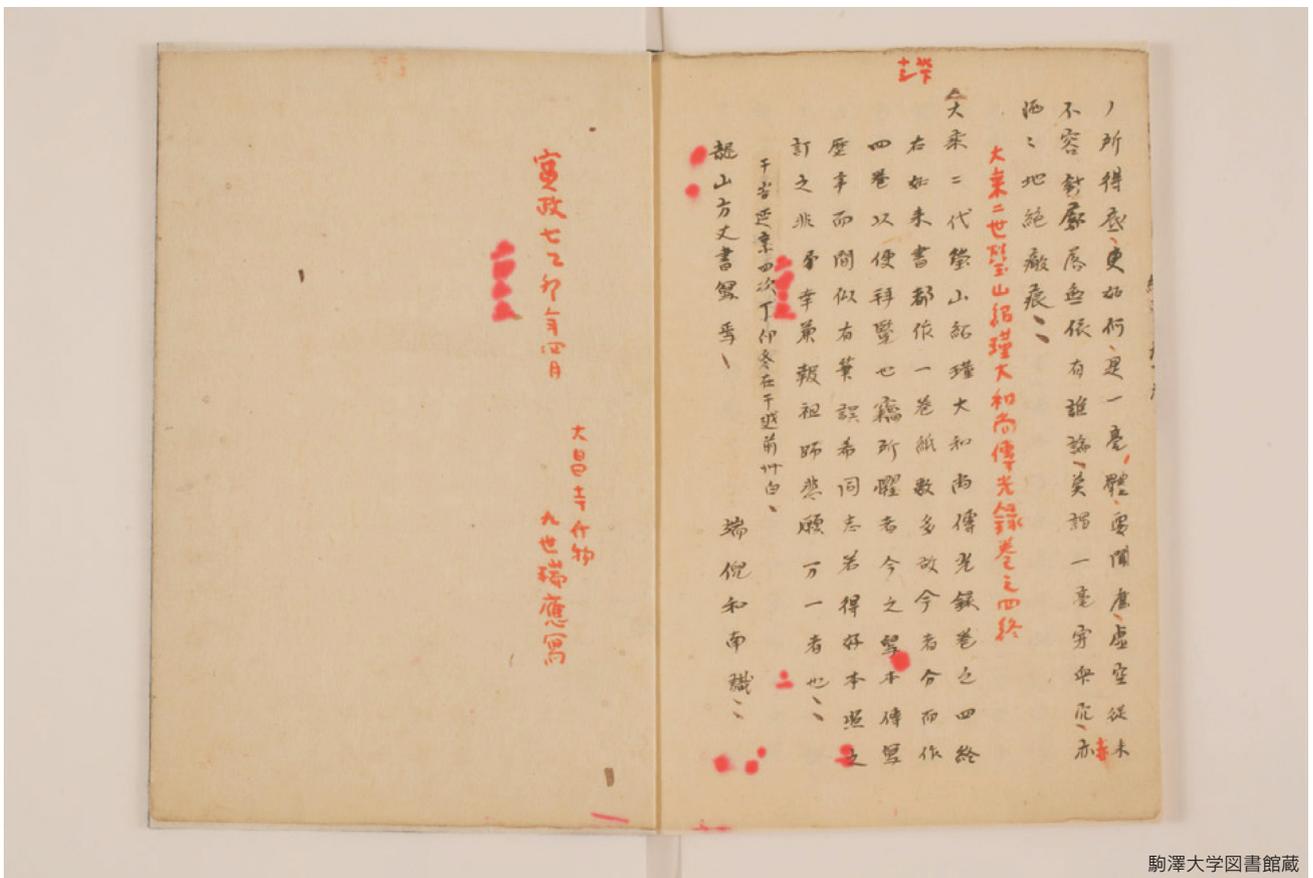
瀬 法衣仏具店

曹洞宗専門 梅花流法具指定販売店
全国曹洞宗法衣同業会会員

〒607-8465 京都市山科区上花山坂尻2-6

電話 (075)593-1255番代表・フリーダイヤル 0120-07-1255・FAX (075)593-1146

駒澤大学図書館が所蔵する『大乘二世瑩山紹瑾大和尚伝光録』は一七四七年（延享四年）に越前の端倪によって写されたものです。4巻4冊からなり、大きさは縦24・7cm×横17cm、1行の長さはおよそ21cm。1ページに11行×18字の書式で書かれています。扉の題は『瑩山禪師傳光録』、内題は『大乘二代瑩山紹瑾大和尚傳光録』となっています。装丁はオリジナルではなく後の時代のもので、第4巻末の奥書から本書が端倪によって筆写されたことが知られ、1・2・3巻の表紙見返し、裏表紙見返しにも朱書きの識語がみられる。文体は片仮名混じり文。第4巻の42丁、43丁が落ちており、補写されているのをのぞけば（デジタル画像では004―046の部分）、たいへんに状態の良い写本であると言えます。所々に朱で書き入れがされていて、古人の読み方がうかがえます。



駒澤大学図書館蔵

法衣・佛具

丸東 株式会社

〒600-8877
京都市下京区西七条南西野町46-5
TEL 075-315-8536
FAX 075-315-8538
☎ 0120-010-193
e-mail: marutou-hoe@siren.ocn.ne.jp

株式会社
中央デザイン
CHUO DESIGN CO.,LTD.

Desktop publishing
Print Industry

〒001-0010 札幌市北区北10条西4丁目 防災ビルB1
TEL (011) 716-4813
FAX (011) 716-4818
chuou-design@bz01.plala.or.jp

あまんずの



ダイアローグ②

「あまんず飯島が、「いのち」にまつわる対話を繰り広げる『あまんずのダイアローグ』。前回に引き続き、看取りの家「なごみの里」（島根県隠岐郡知夫村）代表の柴田久美子氏との対談をお送りします。

出雲の地から死の文化を

柴田 私は今、この出雲の地から「死の文化」を発信しようと思っています。大國主命が出雲大社に入られた時から、出雲ばかりか日本人にとって、死ぬことは大國主命の下にいくことで、死を怖い



柴田久美子(しばた くみこ)

NPO法人 なごみの里 理事長 (代表)

島根県出雲市出身。1952年生まれ。日本マクドナルド株式会社勤務、洋食店経営などを経て、1993年から介護の世界へ。福岡県の特別養護老人ホームの寮母や島根県隠岐郡知夫村の高齢者生活福祉センターのホームヘルパーなどを経験後、なごみの里を設立。

ターミナルの水先にある

幸齢者の島 (後編)

ものだとは思わない、というふうになっていた筈なのですが、敗戦とともに出雲大社の格式が変容してしまいました。それとともに死の文化が廃れてしまつて、今では何故か出雲大社が縁結びの神さまになってしまいました。縁結びとは黄泉の世界との縁結びです。島根にはあちこちに冥土の出入り口と言われている場所があります。この島根という死の文化発祥の地を、日本中のみなさまに楽しく勉強していただいて、死をもう一度考えるきっかけ作りをしていただきたいなと思ってしています。忌み嫌うものではないんですよ。とても大事なものです。そうすると幸齢者さまへの視線が、また違つて

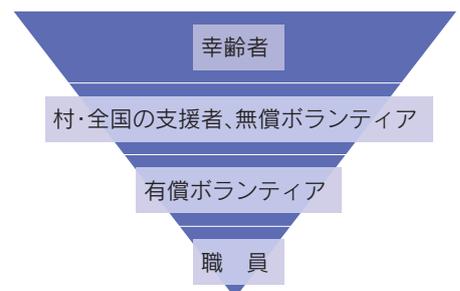
きますよね。死が変わると老いることが変わってくるんです。私はいつも言うんですけど、死に方は生き方なんです。そういうことを、高齢化率日本一の島根から、みなさまに発信したいのです。

飯島 私は以前、諏訪中央病院の緩和ケア病棟に勤務していたのですが、諏訪には何と言っても諏訪大社の御柱祭りがあります。大木に人が乗って坂からゴロゴロって転がり落とすという、命がけのお祭りですけど、そういうところって、近所や地域に深い付き合いがあって、だからこそ諏訪中央病院が在宅の看取りに成功したのになつて。古い伝統が残っているところには、日本人の伝統的な看取りが根付きやすいのかなって思いました。

医療と介護の落とし穴

柴田 多分、私はこの島だから出来たと思つているんです。医療介入がないのは、まずここしかないんですよ。最初が本土だったらできなかったと思うんです。飯島 「すぐ救急車呼べ」っていうふうになっちゃいますよね。

柴田 そうそう。「なんで放っておくんだ」って(笑)。けどここには死の文化が残っているんですよ。決して希望を捨てるわけではないけれど、人間が死ぬこ



なごみの里 組織図
2007年1月1日現在、全国各地の支援者の数は281団体、個人では353名にのぼる。柴田氏による地道な講演活動などで、今なお全国に支援の環が広まりつつある。

柴田 亡くなる二十四時間前まで一回医師が診察をしていれば、後は家族などで看取ることが出来ます。そういうことをみなさんが知らない。だからもう少し、生きることと同じように死も老いることも学ぶことが必要だと思います。

飯島 私が訪問看護をしている時の患者さんに、四十九歳で子宮ガンの末期のご婦人がいらつしやいました。本当は家族がケアしたいけど、本人は「私のため」に仕事や学校を犠牲にしちゃダメ」って。でも旦那さんも仕事に手がつかない



たある幸齢者さま、一週間火葬されませんでした。何故だか分かりますか？ 看取られた娘さんが、外国にいたご長男の到着を待っていたんです。ご長男に母を一目会わせたい、到着するまで絶対焼かないって。この島には葬儀社さんがありませんから、集落全員が集まって、みんなが朝から百食分のお食事を作って、男衆は花笠を作るわけですよ。そうやってお一人お一人の死をみんなで大切に送るんです。そうすることで、みんなで故人を偲んで、それを語り伝える。私はもつと死や老いを共有すればいいと思ってるんです。そうでないと孤が強まって命が伝わらなくなりますよ。

飯島 孤が強まると、家族が煮詰まるんですよね。お年寄り施設へ行って、結局家族はバラバラなままでお葬式もいつの間にか終わって。

柴田 まず大人一人一人が地域社会の中で生きていく。そして命の受け渡しをしなければなりません。これからの多死社会に向けて何を為すべきかを、まず知らなければいけない。どう送るのか、どう送られるのか。子どもの世話にはならないとかよく言われますけど、子どもの世話にはならないといけない。動けなくなったら潔く子どもたちに体を渡さなきゃ。今、日本が金銭的に豊かになっただけで解決できる社会に変わったじゃないですか。お金で幸齢者さまを施設へやって、自分たちの生活を守っているうふうに変わってしまった。敗戦とともに効率だけを追いかけた日本のツケが、今回ってきたのかなと。私は特別養

護老人ホームは、やむをえず必要だと思っっています。だけと大人がそれを認識して、子どもの手を引いておばあちゃんの実態を見せる勇氣を持たなきゃいけない。何となく後ろめたいから自分も子でも行かないという現実があると思うんですが、それではいけないんですよ。そして最後は家でみんなで看ようねと言って、抱きしめて連れて帰る。そうすると日本は変わると思います。

飯島 うちの東堂も最後は帰りたいって言ってたんですけど、お寺の建て替え最中だったので、結局帰れないまま病院で息を引き取りました。本人も点滴が嫌で、断固として拒否をして。だからもつといろいろしてあげられなかったのかな、ってすごい後悔が残っちゃって。

から、朝外出するとパチンコやぶらぶらして五時になると帰ってくるという生活が続けていて、娘さんも同じで。結局ご家族の方が「死をぶらぶら待っているよ」ってやりきれない」と言って耐えられなくなった。それを訪問看護師が中に入って、患者さんに伝えると「そうだったんだ。私も一分一秒家族と一緒にいたかったのよ」って。そのことで家族がひとつになれて、ご家族も含めた二十四時間の介護体制を組んで、最後は思い出の地までドライブしたんですよ。決死のドライブ。いつ呼吸停止が起きても構わないという。私もついて行ったんですけど、そういう良い形のお見送りが出来ました。

「死を学ぶ」ということ

柴田 今は家族の中で死というものが、そうないわけですよ。去年亡くなられ

柴田 私、死の瞬間は自分で選べると思っっています。そのためには、今は家族力が下がっているの地域力を高めましょうというご提案で、今度本土側の松江市にもなごみの里を開所しました。私は、小学校区一つぐらいに死を選べる場所、死を学べる場所があると良いと思っっています。松江はそのモデルケースです。

飯島 お寺さんもそこに関わってくると、ケアもまた違ってくるんじゃないでしょうか。地域力を高めていってお互いの力合わさったら、もっと良い形になるような気がします。私も



飯島 恵道（いじま けいどう）
長野県松本生まれ。尼寺育ち。生と死、命をキーワードに、僧侶としての活動の中で、看護師資格をいける現場を模索中。

是非やりたいと思っっていて。寄ってけ亭”って名前は考えているんですけど。死やケアに関わる話とか病院では話せないことを「ちよつと寄っていつて何でも話す”っていう。そしてたまたまそこにいる患者さんやご家族とも話が出来るとうな、そんなことをやりたいと思っっているんです。
(了)

（平成十九年六月五日
島根県知夫村「なごみの里」にて）

曹洞宗の袈裟に学ぶ

第3回

— 袈裟を縮小した小衣 —

愛知学院大学教授 川口 高 風

瑩山禅師の小衣

石川県羽咋市の永光寺に所蔵する瑩山禅師の掛絡は、同寺四七六世で中興の祖といわれる久外呑良が別布の裏に「御開山 御袈裟」と記して、左上部に縫いつけているところから瑩山禅師の掛絡とみなされた。しかし、

久外が記した別布は縦九センチ、横三十九センチで、三長一短の九条の小衣である。この小衣こそ開山瑩山禅師が用いていたものと久外は理解していたのでないだろうか。そのため掛絡は瑩山禅師のものか断定できない(図1・図2)。



図1 瑩山禅師の掛絡



図2 瑩山禅師の小衣

た_{まんぞうけ}出山道白(一六三六一一七一四)は「鷹峯_{たかのみね}出山和尚広録」巻第十一に「付小三衣瑞藤尼師」の法語がある。それに「我曩_{わがむかし}祖瑩山和尚。領_{うけと}上來密意」。製_{つく}小三衣。一生受持。留在_{まも}洞谷。予三十年來_ま做_な瑩山作_な造_{つく}小三衣。

常秘_{とくひ}于懷中小翼_{こむね}。非_{あら}唯念_{ただおも}三仏_{さんぶつ}弘授_{こうじゆ}受榜_{うけぼう}様_{さま}。又能得_{またえ}免_{まぬ}離衣罪_{りいざい}。とあり、瑩山禅師は小さな五、七、九条の小衣を作つて護持していた。それが永光寺(洞谷山)にある。それに做つて自分(出山)も作り、懷中の小袋に入れて常に持つていた。小三衣を護持するわけは①仏々授受の標榜を忘れないため、②律蔵の捨墮法第二条の離三衣戒を守るためという。出山の指摘したこの小衣こそ九条のみであるが、永光寺に現存する小衣といえよう。

出山の小衣

瑩山禅師に做つて小衣を作つた出山は、開山地の源光庵(京都市北区)に小衣がある。三長一短の十三条衣が二肩(縦十八・五センチ、横三十九・五センチ、縦十五センチ、

横三十二・五センチ)二長一短の七条衣が一肩(縦十五センチ、横十九・五センチ)一長一短の五条衣が二肩(縦十四・五センチ、横十九センチ、縦十五・五センチ、横十六・五センチ)である(図3)。

縦十八・五センチ、横三十九・五センチの十三条衣の裏には「出先師之衣片作此衣 白龍護持」とあり、出山の袈裟の衣財によって作られたもので弟子の三洲白龍が護持していた。縦十五センチ、横三十二・五センチの十三条衣の裏には「出祖之衣片作此小三衣 妙玄先師付付 宗珊沙弥也」とあり、同じく出山の袈裟の衣財で作られ、妙玄先師すなわち妙玄寺開山三洲白龍より弟子の出海宗珊に伝授されたものであった。縦十五・五センチ、横十六・五センチの五条衣の裏には「月祖之衣片作此衣 白龍護持」とあり、出山の本師月舟宗胡の袈裟の衣財によって作られ、三洲白龍が護持していたものである。また、小衣を入れていた縦十八セ



図3 出山の小衣

ンチ、横十六センチの袋もあった。小衣の裏書きによれば、月舟も小衣を護持していたと考えられる。

なお、卍山が元禄十三年(一七〇〇)五月二十二日に白龍へ寄せた書状は自分の遺物の取り定めが記されており、その中に「懐中ノ小三衣心経 隠之長老へ」とあり、小三衣を法嗣の隠之道頭へ形見として贈ることを述べている。

大智、峨山禅師の小衣

江戸期曹洞宗学の第一人者である面山瑞方(一六八三—一七六九)も『永福面山和尚広録』卷二十の「藕絲守護衣記」に「昔瑩山祖師製小衣一而護持。祇陀大智禅師亦做焉。余亦慕蹤」といい、瑩山禅師の小衣を述べるとともに、弟子の祇陀寺の大智(一二九〇—一三六六)も瑩山禅師に做つて護持しており、自分(面山)もこれを慕っていたという。



図4 大智の小衣

大智の小衣は広福寺(熊本県玉名市)にある。縦十センチ、横三十センチの九条衣、縦十一センチ、横二十四センチの七条衣、それに縦十センチ、横十一センチの座具があり、しかもこの小衣を入れていたと思われる紐のついた袋もあり、首から掛けて常に護持していたものと思われる(図4)。

現在、小衣はみあたらないが、峨山禅師もその「喪記」に

御小衣一帖 妙準大師拜領
御小衣一帖 源珠大師拜領
御小衣一帖 義印居士前近江守拜領

とあり、小衣を護持していたようである。遷化後、それを遺品として総持寺の地元である櫛比荘の地頭であった長秀信(義印居士)ら長氏の一族に配分されている。

このように瑩山禅師、峨山禅師、大智ら初期曹洞宗教団を形成した人は小衣を護持していた。おそらく各地の支配者で帰依者となつた豪族に招かれて行脚した時、護持したのではなからうか。しかし、道元禅師をはじめ孤雲懷辨禅師、徹通義介ら永平寺を中心とした人には小衣がみあたらない。どうしてであろうか。北陸地方のみの活動であったためだろうか。詳しいことは明らかにならない。

瑩山禅師以前の小衣

小衣は瑩山禅師によつて生まれたものかというところではない。すでに平安時代に比叡山無動寺の開基で、回峰行の創始者である相応和尚(八三—九一八)の遺品に小衣がある。それは延暦寺に所蔵しており、縦十二センチ、横二十四・三センチの一長一短の五条で、薄茶の平絹(藕糸)でできている(図5)。附属の畳紙に「蓮糸小袈裟 相応和尚 五帖」と記されているところから、相応和尚は五つの小衣を護持していたものと思われた。しかし、延暦寺にはこの小衣のみしか所蔵していないため、「五帖」とは普通から五条と考えられるのである。おそらく相応和尚が回峰行を行うのに、護持しやすいように作成したのと考えられる。

本小衣は昨年、京都国立博物館、東京国立博物館で開催された「最澄と天台の国宝」展において「雛形五条袈裟」の名称で出品された。雛形としたのは実用されている天台小



図5 相応和尚の小衣(図録『最澄と天台の国宝』より転載)



図6 法門寺にあった小衣

五条袈裟と混同を避けるためにつけた名称とのことであった。その図録にカラー写真で掲載されている。

現在、他に小衣に関する類例はみないが、中国陝西省の法門寺では宝塔の地下にあった仏舍利を奉安する宮殿から小衣の七条袈裟などが出土された(図6)。これは咸通十四年(八七三)に唐の懿宗及び僖宗皇帝が仏舍利供養のために献納されたものであった。当時、小衣を作つて供養する風習があったようである。瑩山禅師以前の九世紀には、すでに小衣が作られていた。僧は離三衣戒を犯さないため、在俗者は仏舍利などを供養するために作つたものと考えられるのである。



発行所 全国曹洞宗青年会 〒105-8544 東京都港区芝2-5-2 曹洞宗宗務庁内
 発行責任者 芳村元悟
 編集責任者 河村康仁
 編集委員 青野貴芳・板倉省吾・志保見道一・松岡広也・関根和明・吉田義弘・大室英暁
 藤木総宣・大村則道・狩野晃一・古山健一・川口高裕
 本誌編集部並びに発送部数へのお問い合わせ先
 〒273-0865 千葉県船橋市夏見6-23-3 長福寺内 FAX (047) 436-6808・河村
 全曹青ホームページ <http://www.sousei.gr.jp>
 印刷所 株式会社 中央デザイン
 定価 200円